

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・音読や文字の読み書きに関してはおおむねできているが、個人差が大きい。文章を書くにあたっては、「,」や「。」の意識があまりなく、書き忘れていることが多い。・文字を丁寧に書くことはできるが、時間がかかってしまっている。また、字形が整わないことがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・音読用のプリントを作成して、短い文を繰り返し読み、言葉のまとまりを意識して音読ができるようにしている。・平仮名の定着を図るために、授業の導入やベーシックタイム、宿題などで繰り返し復習を行っている。・物語を繰り返し読んだり、動作化したりして物語の世界に入っていけるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 授業の導入やベーシックタイムで平仮名の復習を行い、筆順や五十音の読み書きを定着させる。② 挿絵から想像したり、動作化したりして、楽しみながら話の内容を理解できるようにしていく。また、読み聞かせをするなどして多くの関連図書に触れられるようにしていく。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① 2学期末の期末テストや、小テストでの正答率② 物語文のまとめテストで、問われていることを理解し、問いに合う答えを見つけて書くことができているか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・10までのたし算・ひき算の計算問題はブロックや指を使い、何とか対応できているが計算ミスは多い。・文章問題では、問われていることの意味を考えるのに時間がかかり、進まないことがある。また、個人差が大きい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・具体物を活用したり、ヒントとなる大切な言葉を見付けられるようにしたりしている。・既習事項を思い出させて、新しい学習につながっていることを理解させる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 文章から図にしたり、ヒントとなる言葉に印を付けたりする。② タブレットを活用して繰り返し復習を行い、学習の定着を図る。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① 2学期末の学期末テストで、自分で問題文章の問われていることを理解し、問いに合った式や答えが書くことができるか。② 2学期末の期末テストや、小テストでの正答率
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 生活科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・気候などの関係上、四季に合わせて学習を実施することが困難であり、教科書や映像等での学習になってしまう。
- ・草花や昆虫の採取、生き物を育てるなどの制限が多い。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度は未就学児のため、記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・様々な植物の種を観察したり、実際に育てたりして、自然に触れる場を増やしている。
- ・写真や動画を見たり、自分でも撮影したりしながら、四季を感じられるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① タブレットPCを使い、記録写真を撮って経緯を残したり、参考映像を見たりする。

<検証方法>

- ① 目的に合ったものを見つけて、写真に撮れているか。植物が成長していく経緯が分かるか。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・歌唱や体を使った表現に対して抵抗感がある。・「学習のめあて」へのイメージがもてず、楽しむことに終始しようとするところがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「うたのほん」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。・「学習のめあて」は絵図を用いて可視化したり、動作化したり、単元時間分を常時掲載したりすることで、学習の見通しをもてるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 「学習のめあて」の提示方法を工夫する。② 個別指導を通して、児童の疑問点を解消する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①② 年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・工作や創作に意欲はあるが、自分の作りたいものを作ってしまう、ねらいから外れてしまうことがある。
- ・個人差が大きく、不器用な児童がいるため、丁寧さに欠けたり、時間内に作品作りが終わらなかつたりすることがある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度は未就学児のため、記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・本時のねらいを明確にしてから、作業に取り組ませている。
- ・基本的な動きを一緒にしたり、お手本となる作品を一緒に作ったりすることで、技術力を高めている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①本時のねらいに沿って活動できたか自分で振り返る時間を作る。
- ②自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。

<検証方法>

- ①ワークシートまたはタブレットでの振り返りの記述をする。
- ②作品を写真に撮り、よい点などのコメントを書き込んで残していく。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ゲーム遊びなどで、複数のチームやグループを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくい。・体力の個人差が大きい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・2年生と合同の体育として、できるだけ人数を増やしている。・グループでの運動の機会をゲーム遊びだけでなく、器械運動系の遊びや、体づくり系の遊びでも取り入れ、チームでの取組や、協働学習の機会をできるだけ増やしている。・全員ができたことを実感できるようにスモールステップで指導している。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①様々な単元，種目でチーム学習や協働学習を取り入れ，多様な考え方，取り組み方に触れられるようにしている。②少しずつ活動量を増やしていき，体力向上を目指す。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①2学期の運動遊びを考えるときに，自分の意見を言ったり，友達と話し合ったりして決めることができたか。②鉄棒カードやなわとびカードなどのがんばりカードの進捗状況を確認する。 (来年度の体力テストの結果も参考にする。)
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 算数科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・令和7年度学力調査の結果から、「位取り」「繰り下がりのあるひき算」「文章問題（立式）（式から問題文を選ぶ）」「何時何分を示す時計の理解」の問題で目標値を下回っている。
- ・文章問題など、必要な情報を読み取って答えを求めることに課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度 未就学児のため記載なし。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・問題文を読むときに、ポイントになる言葉や数字を確認する。
- ・図や絵などに表して考えることができるように取り組む。
- ・ドリルやプリントなどで反復練習を行い、学習内容の定着に努める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①日常的に算数を用いて解決できる方法を考えたり、問題と式との関係を考える場を設けたりして、算数的思考を高める。
- ②ベーシックタイムや空き時間を利用し、デジタルドリルで自主学習を進める。

<検証方法>

- ①算数の言葉を用いて説明したり、日常の中で学んだ算数を活用したりできているか。
- ②デジタルドリルを自分で進め、反復学習ができているか。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 生活科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・現状で知っていることに満足し、新たな発見や疑問をもって取り組もうとする意欲が弱い。
- ・自分の住んでいる地域や人のことについて深く知るための疑問（質問）を考える時に、意図とずれたことに意識が向いてしまいがちである。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度 未就学児のため記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・観察や、探検に行く前にめあてをはっきりさせ、具体的な視点を示す。
- ・使える言葉を確認したり、似た言葉に言い換えたりすることで、語彙を増やしていく。
- ・より良くするための工夫や進め方について助言する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①観察カード等のワークシートは、事前に説明を十分に行い、例を示す。
- ②動画なども利用して興味関心を広げ、思考を広げられるようにする。

<検証方法>

- ①視点を理解した言葉を用いて記述や発言ができていないか。
- ②視点に沿った質問を考えて発言したり、記述したりしているか。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・学習が楽しくなってくると、めあてから離れて思い思いの活動を始めてしまうことがある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度 未就学児のため記載なし

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。
- ・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。
- ・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「歌の本」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。
- ・可視化した「学習のめあて」を提示し、活動中も内容を繰り返し確認したり、めあてに沿った声かけや価値付けをしたりする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。
- ②「学習のめあて」に対する指導を工夫する。

<検証方法>

- ①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。
- ②各授業における発言や振り返りの内容を分析する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・失敗を恐れていたたり,他人の目が気になっていたり,表現したいことはあるがどうしていいかわからないとやらないで終わってしまうことがある。・経験の乏しさや想像力の低さから,既存のものに固執したり,新しいものを生み出すことへの意欲が低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度 未就学児のため記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・友達の良いところを見付けて伝え合ったり,お互いの良いところを真似したりして取り組む。・表現方法の良いところを褒めたり,助言・提示したりして活動の幅を広げる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①教科書の作品例から作り方や表現方法を想像し,試す時間を設ける。</p> <p>②作品作りにおいて,作成過程で声掛けをし,個に応じた助言や補助を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①試したことが,本作品作りに活かされているか。</p> <p>②出来上がった作品が,本人の理想している物となっているか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・体を動かすのは好きだが、苦手とする運動やできない運動に対して始めから諦めてしまう傾向が見られる。
- ・できることと、できないことへの偏りが見られる。
- ・少人数過ぎるため、多彩なグループを作ったり、意見を出し合ったりすることが困難である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度 未就学児のため記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1年生と合同で授業を行い、スモールステップで達成感を味わわせる活動をする。
- ・多様な動きをする運動を多く取り入れ、様々な体の部位を動かしたり体幹を鍛えるようにしたりする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①遊びの要素を取り入れ、楽しみながら体を動かす。
- ②基本の動きから、応用する動きを考えさせ（一人または友だちと）、技能向上につなげる。

<検証方法>

- ①毎回の授業で、どんな運動にも積極的に参加しているか。
- ②運動や活動をする際に、自分の技能を高めようと意識したり、努力したりすることができたか。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は66.7%と目標値(67.5%)、全国平均正答率(67.7%)よりやや低い。また、基礎79.7%、活用40.6%と活用問題の正答率が全国平均正答率(48.8%)よりも低い。 ・「漢字を書く」「最近の出来事について話す」「文章を書く」の項目で全国平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字の習得が不十分であることや相手に伝わるように事柄の順序を考える力が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については、出題された作文を時間内で書く活動が不十分だったと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①語彙が少ないため、音読の際に一語一語の区切りや意味理解が難しい様子が見られること。 ②読書では、文字を追うだけで内容理解までいかず、進んで物語を読むことが難しいこと。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文字定着と読み強化のための音読練習を家庭学習と隙間時間などに継続して取り組ませる。 ②挿絵から想像する、動作化することで言葉理解につなげ、楽しみながら身に付けられるようにする。また、多くの関連図書に触れることで興味関心を広げるようにする。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りについては、週に1回豆テストを行っている。学期末にはまとめのテストを行い、90点以上取れるまで再テストを行っている。また、普段から既習の漢字を使って文章を書くように指導している。 ・日直は毎朝テーマに沿ってスピーチをしており、その他の児童には質問や感想を伝える取組を行っている。 ・文章を書いたりスピーチをしたりする際には、構成メモから文章を組み立てて書いたり話したりするように指導している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ② 毎朝の日直スピーチを ②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。 ③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。 ②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。 ③筋道立てて自分の考えをまとめることができているか文章やスピーチの内容を確認する。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ② 毎朝の日直スピーチを ②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。 ③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。 ②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。 ③筋道立てて自分の考えをまとめることができているか文章やスピーチの内容を確認する。
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ② 毎朝の日直スピーチを ②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。 ③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。 ②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。 ③筋道立てて自分の考えをまとめることができているか文章やスピーチの内容を確認する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は81.5%と目標値(74.0%)、全国平均正答率(75.6%)より高い。 ・「10000までの数・分数」の問題の正答率が低かった。4位数の数の表し方や数の相対的な大きさについての理解が不十分であったことが分かった。 ・「はこの形」に関する問題にも課題が見られた。直方体の辺や面の数への理解が不十分であることが分かった。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>①文章を読んで問われていることを理解することが難しいこと。</p> <p>②「5は1と4」「5は2と3」のように、「片方が1増えたらもう一方は1減る」法則を見付けても、その後の学習に生かせず毎回始めから行う様子が見られること。</p> <p>【改善策】</p> <p>①文章から図に表したり、ヒントとなる言葉に印を付けたりする。</p> <p>②タブレットなどの活用で繰り返しの反復学習を行い、具体物も使いながら理解を促す。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の場면을絵や図、写真などを用いて視覚的に示している。 ・文章問題に取り組む際に、問われていることやヒントになる言葉の色を変えたり、アンダーラインを引いたりして板書をしている。 ・自分の考えを言葉や式を使って書き表し、説明する機会を設けている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①問題場면을視覚的に示したり、具体物を操作したりする活動を多く取り入れる。</p> <p>②授業の導入時やベーシックタイムに既習内容を復習する時間を取る。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①文章問題において正しく立式できているかを確認する。</p> <p>②学期末テストで80点以上取れているか確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①問題場면을視覚的に示したり、具体物を操作したりする活動を多く取り入れる。</p> <p>②授業の導入時やベーシックタイムに既習内容を復習する時間を取る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①文章問題において正しく立式できているかを確認する。</p> <p>②学期末テストで80点以上取れているか確認する。</p>
<p><方策></p> <p>①問題場면을視覚的に示したり、具体物を操作したりする活動を多く取り入れる。</p> <p>②授業の導入時やベーシックタイムに既習内容を復習する時間を取る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①文章問題において正しく立式できているかを確認する。</p> <p>②学期末テストで80点以上取れているか確認する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・令和7年度の学力調査において、理科の調査は実施していない。
- ・今年度から理科の学習を始めたばかりなので、科学的思考がまだ身に付いていない。
- ・科学的事象への興味・関心は高いが、理由や根拠を探ろうとする意識が低い。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・該当項目なし。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、毎時間や各単元の最後に振り返りの時間を取っている。
- ・「学習のめあて」、「問題」、「予想」、「結果」、「まとめ」などの授業の流れを明確にすることで、一連の科学的思考の流れを身に付ける。また、科学的事象への理解を深まるように、児童が既に知っている事項でも、理由や根拠を問いかけている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。
- ②授業の流れを明確にして進め、理由や根拠を問いかけ、自分で課題を見付けられるようにする。

<検証方法>

- ①単元テストの「知識・技能」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。
- ②単元テストの「思考・判断・表現」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">多くの児童が主体的に活動に取り組んでいるが、活動内容によって好き嫌いや集中力にバラつきが見られる点が課題である。音楽能力や感性は優れている児童が多い反面、活動の趣旨を理解するのに時間がかかることも多く、学習のめあてをいかに分かりやすく明確に伝え、スムーズに学習活に取り組める工夫や授業の組み立てが必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないように、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">特に器楽の活動に対して前向きな児童が多いことから、リコーダーを主体として、小さなことでもできたことをきちんと評価し、次のステップに必要な練習について個人レッスン形式で伝えていく。歌唱や、鑑賞についても同様であり、まずは「自分はできるんだ」という自信をもたせていく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①年2回のアンケート実施</p> <p>②授業ごとの振り返り、題材のまとめの活動の徹底</p>	<p><検証方法></p> <p>①結果の分析及び、それに基づいた授業の改善</p> <p>②振り返りの結果から、技能の成長を児童が実感できるような評価を行い、学習の定着化を図る。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が造形遊びや表現の活動そのものを楽しんでいるが、題材の趣旨を理解しきれていないまま、自分のやりたい遊びに終始してしまう場面があることが課題。また、自分のイメージに技能が追いつかないことで落胆してしまったり活動に消極的になってしまったりする児童も少なくないため、造形遊びと絵や立体に表す活動で変化をつけるなど授業の組み立てを工夫していく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】自分が何をどのようにすればよいのか分からず、なかなか制作を始められない児童がいる点が課題である。小学校入学前までに習得した既成概念が影響しているのか、いわゆる「可愛い絵」や「カッコいい形」をまねる傾向があり、独自性を追求する作品がなかなか見られない点が課題である

【改善策】授業の導入で本時のめあてを提示し、教科書の該当箇所を全員で確認することで、制作方法や作品例を知り、円滑に制作を始められるようにする。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】図画工作の授業が始まるという時点で気持ちの高揚があるため、導入時にめあてを理解したり必要な説明を聞いたりすることが難しい児童がいる。楽しみな気持ちや湧きあがったイメージを尊重しながらも、めあてを意識できるような導入時の言葉かけや板書の工夫、授業の組み立てを継続していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

授業の始めに授業の流れとめあてを示して確認することを徹底し、授業終わりの振り返りをワークシートに記入して自分の取り組みを思い出しながら、次回に向けてやるべきことや考えていることを言語化してまとめることを習慣化できるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

<検証方法>

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度1学期授業評価アンケートでは、「体育の授業は好きか」や「体育の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。令和7年度6月実施の体力テストにおいては、男女ともに全国平均値を上回っている。しかし、結果を見ると児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">ゲーム遊びなどで複数チームを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくいこと。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">様々な場面で共同学習を取り入れ、多様な考え方や取り組み方に触れられるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">技能のポイントを絞って伝え、児童同士でアドバイスし合う場を作る。楽しんでできるような場や方法を設け、スモールステップで達成感をもたせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①技能のポイントを絞ったり、可視化したりして分かりやすく提示する。②振り返りカードなどを活用したり、友達同士でアドバイスし合ったりする場を作る。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①授業中の動きを見取る。②振り返りカードや活動後の振り返りの様子を見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・今年度の学力調査の学級平均正答率は56.8%（基礎60.0%，活用50.0%）と全国平均正答率より10.0%低いことが分かった。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率を上回っている。また、「書くこと」についてはテスト時間内に最終問題の作文まで着手できず、無回答である児童や途中で終わってしまった児童がいるなど、テストに慣れていない現状が見えてきた。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・漢字の練習で新出漢字だけを書き続けたり、熟語のみを書き続けたりする練習ではなく文章を自分で考え、文章中に新出漢字を用いた熟語を取り入れて練習する。
- ・詩や俳句、短歌などの短い文章を、折にふれて書く。
- ・物語の感想文や説明文の要約、お礼の手紙や新聞の作成など、比較的長い文章を書く機会を数多く設定する。
- ・「話すこと・聞くこと」に関する事項については未記載であった。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫など、伝える相手、目的を意識した作文指導に加えて、文章の構成を意識すること、時間内に書くこと、既習の漢字を使うことを徹底する。

- ・意見があっても、どのように発表すればいいのか思い付かない場合は、友達の発表を参考にして意見を話すこと、書くことを指導している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 新出漢字をノートに練習する際に短文を作成させる。
- ② 友達の意見を聞き、内容に対して必ず反応することで、聞くことに対する必要感と発言力を養う。

＜検証方法＞

- ① 学年末に学力テスト過去問題の作文に取り組み、7割の正答率を取る。
- ② 朝のテーマスピーチで「話す」「聞く」際の文章構成力、反応を見る。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・今年度の学力調査の学級平均正答率は 53.3% (基礎 54.7%, 活用 50.0%) と全国平均正答率を 16.9% 下回っている。

「地域や市の様子」以外の項目で全国平均正答率を下回っており、複数の資料の中から正解を見付ける力に課題がある。また、無回答の項目が平均を下げている様子も見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・教科書や地図帳と併せてインターネットで調べ学習等を行う。実生活を通じて理解することが難しい内容も、間接的に理解させる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・社会科の用語を覚えるために、言葉と意味を関連付けて話をする。
- ・問題を理解するために、毎時の核となるキーワードを授業内で指定し記述(入力)させる。
- ・地図帳と併せてインターネットで調べ学習などを行う。実生活を通じて理解することが難しい内容も、間接的に理解できるよう支援する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 文章・数値などの資料について「何を示した資料か」を毎回考え、見出しを見る習慣を付ける。
- ② 「社会のキーワード」として、毎時タブレットに入力することで社会科の言葉を学習していく。

<検証方法>

- ① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。
- ② 単元の最後にスライド、もしくは新聞づくりを通じたまとめを行い、キーワードが使えているかを見取る。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・今年度の学力調査の学級平均正答率は69.4%（基礎74.4%，活用51.4%）と全国平均正答率を3.0%下回った。
- ・「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」において全国平均を下回ったが、いずれの問題においても学級内での回答率、正答率に大きな差がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・問題に取りかかる際に、確かめや見直し、答えの見当を付けさせることを徹底させる。その上で基礎基本の定着を図る。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・問題に取りかかる際に、答えの見当を付けさせることを徹底させる。また、単位がある問題の場合は具体物を提示するなど、量感を養い、その上で基礎基本の定着を図る。
- ・筆算ではマスをそろえる、数字を丁寧に書くなどの方策を用いて位の間違いや重複などがないか確認させる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 単位の一覧表を教室に掲示し、長さ、重さ、かさなど、既習の単位について確かめさせる。
- ② 単元の終わりにスモールステップでの練習問題に取り組み、基礎基本の定着を図る。

<検証方法>

- ① プレテストを行い、結果から見取る。
- ② 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は33.1%（基礎38.0%，活用22.2%）と全国平均正答率を13.6%下回った。 ・「物質・エネルギー」「生命・地球」において全国平均を下回ったが、いずれの問題においても学級内での正答率に大きな差がある。また無回答を含めた後半の回答率の低さが目立っている。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考の土台となる基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。 ・各単元において、既習内容を生かして問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外での活動をできるだけ増やし、実験、観察、映像教材などの効果的活用等を通じ、理科への興味関心の一層の向上を図る。 ・観察の記録にはタブレットを用い、同一様式で連続してまとめていく。観察対象の継続的な変化を読み取りやすくし、理解度を向上させることができるように支援する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>① 屋外での活動、実験、観察、映像教材の活用など、活動的な内容を充実させる。興味関心の向上と学習の定着を図る。</p> <p>② タブレットを用いた学習活動を用い、単元の学習内容をスライドにまとめられるよう支援する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。</p> <p>② 各単元の終わりに単元の内容がスライドなどにまとめることができているかを見取る。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>① 屋外での活動、実験、観察、映像教材の活用など、活動的な内容を充実させる。興味関心の向上と学習の定着を図る。</p> <p>② タブレットを用いた学習活動を用い、単元の学習内容をスライドにまとめられるよう支援する。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。</p> <p>② 各単元の終わりに単元の内容がスライドなどにまとめることができているかを見取る。</p>
<p><方策></p> <p>① 屋外での活動、実験、観察、映像教材の活用など、活動的な内容を充実させる。興味関心の向上と学習の定着を図る。</p> <p>② タブレットを用いた学習活動を用い、単元の学習内容をスライドにまとめられるよう支援する。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。</p> <p>② 各単元の終わりに単元の内容がスライドなどにまとめることができているかを見取る。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・どの児童も器楽や鑑賞、創作の活動については意欲的に取り組めるが、歌唱については他人にどう見られているかという点が気になる児童が多く、本来の実力を発揮しきれていない側面がある。各活動において、個人のよさをより引き出すための授業のルールや課題の設定が必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。・リトミックをベースとして、周囲の音を聞いたり、それらに合わせて体を動かすなどの表現をしたりする活動を取り入れ、表現力や思考力、集中力が高まるようにする。・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「歌の本」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・個々の生徒が自分の課題に集中して取り組むための座席配置。・授業の振り返りシートを用いた自己評価。・個人レッスンによる個々の技能の伸長。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① 授業の振り返りシート。</p> <p>②個人レッスン(技能の指導だけではなく、よくできたところをきちんと言葉で評価し、表現に対する自信を身に付けさせる。)</p>	<p><検証方法></p> <p>①毎時間「どれだけ自分が授業に集中できたか」「どれだけ授業の内容を理解できたか」を確認する。</p> <p>②演奏発表による検証。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が表現活動そのものは楽しんでいるが、自ら主題を見付けたり自分らしくイメージして表現したりするのが難しい児童が多数を占めていることが課題。また、人間関係に課題があることで活動に支障をきたす場面も少なくない。それぞれがよりよい表現を目指して活動を楽しむためのルールの設定や授業の組み立てが必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】 時間内に早く作品を完成させることを意識するあまり、色の塗り方や制作が雑になってしまう点が課題である。日常的に目にしているデザインに強く影響されて、いわゆる「マンガ顔」や「キャラクター」をまねたような作風になってしまう児童がいる点が課題である。

【改善策】 単元ごとに作品カードを書かせ、作品の写真を記録することで、早く完成させることよりも作品の完成度を重視することを伝え、自身の作品の完成度をより高めるような意欲付けや動機付けを行う。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、何かに似せるのではなく、自分の独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】 徐々に改善傾向にあるが、今後も作品カードの記入や発表を通じて相互の作品を鑑賞する場面を重視し、単純な見た目の良さに触れるだけで終わらせず、工夫を凝らした部分や発見したことについて価値付けられるよう、より具体的な支援をしながら協働的な学びの場を設定していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

昨年度までは多くの児童が自分の行ったことを記録するだけで精いっぱいだったが、授業ごとの振り返りワークシートの入力や作品カード、活動のまとめなどを書く際に、発見したことや工夫したことを中心に振り返って考えながら書くよう声かけをし、必要に応じて支援しながら活動を充実させている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・体力テストでは、男子は20mシャトルランに課題が見られた。女子は在籍人数から、単純な比較自体は困難である。学級得点平均値は全国得点平均値を上回るが、個人差が大きいことには留意することが必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・実技に入る前の段階であらかじめ児童自身が要点を踏まえ取組ができるよう、動画教材などを用いて理解を促す。・児童同士でお互いの動きを確認し話し合ったうえで、改善し、繰り返し取り組む。・タブレット端末の動画撮影機能を用い、自らの動きを確認し、次の取り組みに生かす。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・授業後にできるようになったこと、考えたことを振り返る活動をタブレットで行い、その内容に対し、教師が助言を行う。・映像等の視覚的な資料を用意し、技のレベルや内容などを提示し、児童が積極性をもって運動に取り組める環境を作る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① タブレットでの振り返り活動の際、児童自身の考えを言語化できるように言葉かけをしていく。② 視覚的な資料を用意し、児童一人一人が自分の課題に応じて運動を選ぶことができる環境をつくる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① タブレットでの毎時間の振り返り内容や授業内の発言から見取る。② 授業内での発言や、単元のまとめでの振り返り内容から見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・今年度の学力調査の校内平均正答率は61.1%（基礎60.8%，活用61.9%）であり，目標値65.2%，全国平均正答率66.1%を下回っている。
- ・「ごみのしよりと利用」の正答率は60.0%，「先人の働き」の正答率は33.3%と目標との差が大きかった。自分たちの地域との違いもあるが，資料を読み取る力に課題があると見られる。
- ・正答率の個人差が非常に大きかった。学習形態の工夫や個に応じた支援が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度の学力調査において，第3学年社会科の調査は実施していない。
- ・写真や地図などを読み取り，課題を見いだすことに課題がある。
- ・身近な地域の学習に関して，地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・地図やグラフ，表などの資料を読み取る学習を丁寧に行い，資料活用の技能や基礎的な知識の定着を確実にする。
- ・「ジグソー学習」などで調べたことを伝え合う学習を工夫し，「分かる」だけでなく「考えて表現する」ことを重視する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①地図やグラフ，表などの資料を読み取る学習を丁寧に行い，資料活用の技能や基礎的な知識の定着を確実にする。
- ②「ジグソー学習」などで調べたことを伝え合う学習を通して，自分の考えを表現できるようにする。

＜検証方法＞

- ①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
- ②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。

4. 検証結果（成果と課題）

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は63.5%（基礎66.7%，活用55.6%）であり，目標値65.9%，全国平均正答率67.9%をやや下回っている。・「わり算・計算のきまり」の正答率が44.4%，「いろいろな形」が44.4%，「変わり方調べ」が50.0%となっており，目標値・全国平均を大きく下回っている。・「活用」や「思考・判断・表現」の正答率の個人差が大きく，結果的にクラスの数値を下げている。個に応じた支援が必要であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年5月実施の学力調査では，文章問題（求小の場面）で，正答が4人中1人だった。文章問題の場面を正しく読み取り，立式することに課題がある。・長方形の色紙を敷き詰めて正方形を作る場面で，作った四角形が正方形になる理由を記述する問題の正答が4人中1人だった。筋道を立てて考えること，そして考えたことを言葉や数や式を使って説明することに課題がある。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項や四則計算の復習を意図的に行い，知識・技能の定着を確実にする。・文章問題では図示するなどして題意の理解を確実にし，正しく立式することを重視する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①習熟問題や既習事項の復習を重視し，知識・技能の定着を確実にする。②文章問題では図示するなどして題意の理解を確実にし，正しく立式できるように指導する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・今年度の学力調査の校内平均正答率は51.7%（基礎55.0%，活用44.4%）であり，目標値61.7%，全国平均正答率59.5%をかなり下回っている。
- ・「電気のはたらき」が22.2%，「月と星」が33.3%，「物の体積と温度」が44.4%，「水のすがた」が41.7%と特に正答率が低かった。「基礎」が55.0%で，目標値の68.5%に対してかなり低かった。
- ・個人差が非常に大きく，正答率が低い児童は無答が多かった。時間内に問題に取り組む力が不足していた。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・今年度から理科の学習を始めたばかりなので，科学的思考がまだ身に付いていない。
- ・観察や実験に対するの興味・関心は高いが，理由や根拠を探ろうとする意識が低い。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・基礎的な知識や技能を確実に身に付けているかを理解するために授業の導入や各単元の最後に振り返りを行い，復習を徹底する。
- ・生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図，資料等を使って表現させることによって，論理的に思考することを習慣化させ，表現力を高める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。
- ②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。

<検証方法>

- ①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
- ②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。

4. 検証結果（成果と課題）

<成果>

<課題>

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「音楽科の授業が好きか」や「音楽科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。5学年の児童は総じて音楽に対する意欲、関心が高く、歌唱だけではなく器楽の表現についても意欲的に取り組むことができるが、楽しむことを重視するあまり、技能の向上についてはやや課題が残る。また、鑑賞の活動においては、自分の感じたことや考えたことを言語化することが苦手な児童が多い。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。
- ・器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないように、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・様々な種類の楽器を用いたアンサンブルの活動を通して、協働的に練習に取り組む習慣を作る。
- ・鑑賞の活動を通して、自分の思いや意図を言語化し、演奏に生かせるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

① スモールステップによるアンサンブル活動

- ②鑑賞の活動では教科書と音源だけではなく、作曲家や楽曲に関する資料も配布する。

<検証方法>

①毎時の小目標を提示し、達成度合いを検証する。

②ワークシートの記述内容。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

授業内での実習・実験等の体験的な活動の有無で興味関心に偏りが見られる。また授業題材によっては消極的に取り組み、「授業から学ぶ」のではなく「授業をこなす」という傾向が見られる点が課題である。全ての題材においての興味関心を高め、自身の生活と結び付けて考えを深めながら自分から進んで学ぼうとする意欲を向上させていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度未実施のため該当項目なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・実習や実験などの体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、動画などの視覚教材を活用しながら理解を深められるようにしている。
- ・自身の生活について振り返る機会を設けたり、実習や実験などの体験的な活動を通して学んだことを家庭で生かせるように記録課題を設定したりしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①視覚教材を活用したり、実習や実験等の体験的な活動を多く取り入れたりする授業構築を行う。
- ②授業内での困り感を払拭する声掛けと個に応じた適切な支援。

＜検証方法＞

- ①授業評価アンケート、毎授業の振り返り。
- ②授業評価アンケート、ワークシート、毎授業の振り返り、題材毎の単元テスト。実習や製作の記録課題。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好きか」や「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。自分たちでルールを工夫したり、自分やチームの特徴をとらえて作戦を立てたりすることを上級生に頼ってしまうことに課題がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度6月実施の体力テストにおいては、高い記録を示している児童がいる一方で、「ソフトボール投げ」等で記録が伸びていない児童もいた。このことから、児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。 <p>→分かりやすい技能のポイントを複数用意し、自分に合ったものを選択できるようにする。また、ICT機器を活用し、児童が自分自身の動きを視覚的に確認して改善につなげることができるようにする。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">技能ポイントやルールをモニターに映し出し、視覚的に体感できるようにしている。選択肢を用意したり少し道筋を見せたりして、考えるきっかけを作っている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回授業評価アンケートを実施する。②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">教科書で学習した単語や定型的なフレーズの理解や聞き取りは良好であるが、スモールトークやALTとのやり取りにおいて「What～?」「Who～?」「Why～?」などと聞かれた際に、上手く会話することが苦手である。自分の思いや考えを伝える際に、I'm～.やIt's～.を付け忘れて単語で発言する様子が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">ALTと協力し、ジェスチャーをしたり、他の言い方で伝えたりしながら、児童に取り組んでほしいことを英語で理解できるようにする。児童が単語で自分の思いや考えを伝えようとした際に、I～. I'm～.などの言葉を付け加えて児童が復唱するように促す。アルファベットや重要語句をワークシートに書く活動を取り入れている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①ねらいとするフレーズを使った2～3往復の短い対話を毎回の授業で行い、必要に応じて言い直しなどの支援を行う。</p> <p>②アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①授業の中で、ALTや教師、友達との対話の様子を観察する。パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせで表現できているか評価する。</p> <p>②ワークシートや評価テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は57.1%（基礎67.6%, 活用33.3%）であり、目標値65.6%, 全国平均正答率66.4%を下回っている。 ・「漢字を読む」の正答率が100%であるのに対し、「漢字を書く」の正答率は61.1%、「言葉の学習」の正答率は46.7%であった。1人1台タブレット端末導入による文字を書く機会の減少が影響していることが考えられる。 ・「文章を書く」の正答率が0%であった。昨年度29.2%であったが数値が低下した。40分の時間配分、指定された条件の作文を短時間で書く力が高まっていない。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の学力調査の結果は、全国平均を若干下回っており、特に「文章を書く」の問題では全国平均57.0%に対し、正答が得られなかった。テスト全体を通して回答する際の時間配分が影響している可能性もある。回答の手順をあらかじめ伝えることも検討したい。令和4年度の学力調査における「文章を書く」の結果は、平均正答率20.8%, 全国平均57.0%であることから、あまり改善されていないことが分かる。このことから、特に「文章を書く」ための力を付けることが、国語における課題である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章いきなり「書き始める」のではなく、書く前に「構成メモ」を作成することを徹底している。 ・文章の型を示し、必要に応じて使うよう声かけをしている。 ・語彙の量を増やすために、日頃のノート指導で既習の漢字を使って書くように指導している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①文章を書く際には、教科書の例示などをもとに「構成メモづくり」「文章の型を使った作文」を徹底していく。</p> <p>②日頃のノート指導で、既習漢字を使うことができているかを確認する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①問われていることに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を確認する。</p> <p>②漢字20問小テストを金曜日のベシックタイムに行い、全員が80点以上取れているか確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①文章を書く際には、教科書の例示などをもとに「構成メモづくり」「文章の型を使った作文」を徹底していく。</p> <p>②日頃のノート指導で、既習漢字を使うことができているかを確認する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①問われていることに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を確認する。</p> <p>②漢字20問小テストを金曜日のベシックタイムに行い、全員が80点以上取れているか確認する。</p>
<p><方策></p> <p>①文章を書く際には、教科書の例示などをもとに「構成メモづくり」「文章の型を使った作文」を徹底していく。</p> <p>②日頃のノート指導で、既習漢字を使うことができているかを確認する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①問われていることに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を確認する。</p> <p>②漢字20問小テストを金曜日のベシックタイムに行い、全員が80点以上取れているか確認する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は64.5%（基礎64.9%、活用63.0%）であり、目標値67.5%、全国平均正答率69.2%を下回っている。 ・「世界の中の国土」の正答率は50%であった。特に赤道、大西洋の位置に関する問題で無回答の児童がおり、知識の定着に関する学級での取組が不十分であることが分かった。 ・日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題では、正答率が17.4%とかなり低く、資料から考え表現する力に課題があることが分かった。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の学力調査の結果は、全国平均をやや下回る結果となった。前学年で学習した「市の様子の変り変わり」（全国平均52.4%に対し平均正答率5.6%）に大きな課題が見られた。問題を分析すると、駅舎の時代による変遷、交通網の時代による変遷、自治体の合併による人口増加の変遷という本校児童にとって実生活を通じての感覚が乏しい分野が苦手であることが分かった。実生活から見えない状況を想像することは難しく、教科書だけでは、知識や技能は定着しないということが課題である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を生かして授業スライドを児童に共有し、資料から情報を読み取ることに重きを置いている。 ・教科書だけでなく、副教材の資料集も活用して視覚的に情報を記憶できるように工夫している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①教科書の写真を見るだけでなく、動画を活用して知識を定着できるようにする。</p> <p>②授業で学んだキーワードを使って、振り返りを書く活動を可能な限り毎時間を行う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①教科書の写真を見るだけでなく、動画を活用して知識を定着できるようにする。</p> <p>②授業で学んだキーワードを使って、振り返りを書く活動を可能な限り毎時間を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>
<p><方策></p> <p>①教科書の写真を見るだけでなく、動画を活用して知識を定着できるようにする。</p> <p>②授業で学んだキーワードを使って、振り返りを書く活動を可能な限り毎時間を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>		
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は53.1%（基礎63.2%、活用22.9%）であり、目標値62.3%、全国平均正答率60.9%を下回っている。・内容別に見ると「分数と小数」の正答率が50.0%、「円グラフや帯グラフ・平均」が33.3%となっており、目標値・全国平均を大きく下回っている。中でも記述式の問題で無答が目立っており、自分の考えを説明する力が不十分であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・分数で表すことの良さを児童と確認し、既習事項を授業前に掲示物でおさえる。・グラフ問題だけでなく、数直線など用いた際にも単位や数値、めもりの間隔にこだわりながらノート指導を行っている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①単元内のキーワードや授業な考え方は紙に書き、教室掲示していつでも復習できるようにする。②数直線などを用いた際に、単位や数値、めもりの感覚にこだわって自分の考えを書くように指導する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②式を数直線で表す活動を行った際には、毎回めもりの間隔を重点的に確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は60.0%（基礎57.9%，活用63.6%）であり，目標値65.0%，全国平均正答率65.7%を下回っている。 ・「人のたんじょう」の正答率は58.3%であった。子宮や受精の知識に関する問題で誤答する児童が見られ，知識の定着に関する学級での取組が不十分であることが分かった。 ・「ふりこのきまり」の正答率は38.9%とかなり低かった。特に「ふりこを用いた対照実験を計画する」問題の正答率が33.3%であり，実験計画を自分たちで考えて必要感をもって実験する経験が少ないことが分かった。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「太陽と地面のようす」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率16.4%），「電気の通り道」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率18.4%）に課題が見られた。学習した知識を使って論理的に思考し，自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが，今後の課題である。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能を確実に身に付けているかを理解するために授業の導入や各単元の最後に振り返りを行い，復習を徹底する。 ・生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図，資料などを使って表現させることによって，論理的に思考することを習慣化させ，表現力を高める。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①単元テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>
<p><方策></p> <p>①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度の1学期授業評価アンケートでは、「音楽科の授業が好き」「音楽科の授業は分かりやすい」という項目に関して、ほとんどの児童が肯定的な回答である。一方で授業内容の理解度や取り組み方についてはやや課題が残り「できるようになるまでのプロセス」を丁寧かつきめ細かく指導していく必要がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">器楽分野に課題があり、上手く出来なくてもよいので諦めずに最後まで取り組むことに重点を置いていた。しかし、今年度は音楽的な感性を働かせ、楽器の特徴を生かした音色で演奏できるよう器楽分野をさらに発展させていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">ソプラノリコーダーの活動において、ワークシートによる自己評価を実施した。また、少人数クラスを活かした個人レッスン形式で「良い音色とは何か」といった手本を示し、それに向けた具体的な練習方法を提示する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①自己評価シート②個人レッスン	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①記入内容から、学習内容の理解度を確認する。②中間発表、まとめの発表を通してどれだけ技能が向上したかを確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が造形遊びや表現の活動そのものを楽しんでいるが、題材の趣旨を理解しきれていないまま、自分のやりたい遊びに終始してしまう場面があることが課題。また、自分のイメージに技能が追いつかないことで落胆してしまったり活動に消極的になってしまったりする児童も少なくないため、造形遊びと絵や立体に表す活動で変化をつけるなど授業の組み立てを工夫していく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】自分が何をどのようにすればよいのか分からず、なかなか制作を始められない児童がいる点が課題である。また、小学校入学前までに習得した既成概念が影響しているのか、いわゆる「可愛い絵」や「カッコいい形」をまねる傾向があり、独自性を追求する作品がなかなか見られない点が課題である

【改善策】授業の導入で本時のめあてを提示し、教科書の該当箇所を全員で確認することで、制作方法や作品例を知り、円滑に制作を始められるようにする。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】図画工作の授業が始まるという時点で気持ちの高揚があるため、導入時にめあてを理解したり必要な説明を聞いたりすることが難しい児童がいる。楽しみな気持ちや湧きあがったイメージを尊重しながらも、めあてを意識できるような導入時の言葉かけや板書の工夫、授業の組み立てを継続していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

授業の始めに授業の流れとめあてを示して確認することを徹底し、授業終わりの振り返りをワークシートに記入して自分の取り組みを思い出しながら、次回に向けてやるべきことや考えていることを言語化してまとめることを習慣化できるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

<検証方法>

- ①年間2回の授業評価アンケートを実施し、内容を分析する。
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

基礎的な知識が定着している児童は多いが、それを活用したり、自身の考えや作品に表現したりすることに対しては課題が見られる。また、題材に関して自身の生活と結び付けて考えながら内容を深めたり、振り返ったりする意欲を高めていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度未実施のため該当項目なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・実習・実験などの体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、既習事項を活用する機会を増やしている。
- ・実習や製作の記録、毎授業の振り返りなどで授業内容を深め、自身の生活を振り返りながら考えられるような時間を設けている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 既習事項を活用することを意識させる声かけと個に応じた適切な支援を行う。
- ② 知識を活用しながら自ら考え、表現する機会を増やした授業の構築を行う。

<検証方法>

- ① 実習や製作の記録課題、ワークシート、題材毎の単元テスト。
- ② 実習や製作の記録課題、ワークシート、授業の振り返り。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・
- ・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度の1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好き」「体育科の授業は分かりやすい」という項目に関して、全児童が肯定的な回答をしている。技能のポイントを理解して言葉で説明したり技能習得に向けて繰り返し練習に取り組んだりすることができるが、理解から実践（試合形式）へつなげることが課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">体力テストにおいて、良好な記録の児童と記録が伸びていない児童が混在しており、児童によって体力差や技能に幅があると言える。 <p>→動画教材、タブレット端末で撮影した自身の姿などを視聴し、要点を理解する。また、児童同士のアドバイスを踏まえた上で実技に取り組ませる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">短い合図やキーワードを使って、練習で身に付けた動きと結びついていることを実感させる。技能ポイントやルールをモニターに映し出し、視覚的に体感できるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・・
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p>	

